

第7投目：クロに助けられた大会、リベンジの巻

奄美磯釣連盟 3月大会が始まりました。この大会も2月大会と同様3日間限定の釣果で競われ、クロの全長(現物審査)で順位が決まります。

2012.3月某日、クラブメンバーで瀬戸内町の西側海域へ大会入賞を目指し釣行しました。当日の風向きは東から南東になる予報でしたが、いつもながら前日までの北からのうねりが結構残っています。午前6時すぎ、夕離れ周辺の離れ瀬に渡るにはギリギリの波の状態でしたが、なんとかY副会長と二人でM瀬に降りることができました。

磯に降り、薄暗いうちからいそいそと道具をセットし始めます。『さあ~まずは撒き餌でも打ってみようか!』とバツカンを持ち、狙っていた釣り座を見ると、なんとすでにY副会長がその場所で竿を出してはではありませんか(笑)。3日間しかない期間中の大事な朝マズメ・まずは先制パンチでしょうか。ですがその場所は北からの大波で波飛沫が強烈、開始5分で2回のシャワーを頭からかぶり、バツカン内は水びたし・意気消沈した様子で高台へと戻っていったY副会長の姿がありました。

潮はほとんど動いてない様子ですが、東の風がだんだんと強まってきました。風が北からの波で飛ばされる仕掛けと、きつい波飛沫シャワーを弱めてくれ始めた7時すぎ、それまでほとんどアタリを捉えてくれなかったアタリウキがサラシの中に吸い込まれました。なんとか朝のうちで出てくれた1枚、Y副会長にタモ入れしてもらったクロは大会中にはありがたい47cmでした。

二人で打っていた撒き餌が効いてきたのでしょうか。続いて、同ポイントでそれぞれ1枚ずつ追加です。しかし、この2枚は先ほどより小さく45cmほど、更なる大型を狙います。

しかし、その後はクロの姿も確認できず二人とも雑魚をぼつぼつ釣る空白の時間が続きます。そして午前11時すぎ、一昨年と同大会で優勝魚をゲットした場所に移動し餌を撒いてみると、若干下げ潮が動いているようですが、まもなく潮変わりしそうな雰囲気です。潮のゆるみと餌取りの魚の動き、何か感じるものがあり仕掛けを投入してみます。払い出しの切れ目から沖の潮に仕掛けを入れていくとダツが2匹釣れ、その次の1投・スプールの指をはじくカツオのような豪快なアタリです!重量感はあるながらもあっさり手前に寄り、際で突っ込みをみせる独特の引きを制して浮かしたのは48cmのクロでした。

魚影が見えるまで『クロであってくれ!』と祈りっぱなしで捕った魚は3月大会の優勝魚となり、なんとか2月大会のリベンジに成功!潮変りの時合でたまたま活性の上がったクロだったかもしれませんが、そのタイミングを逃さない運も味方につけた嬉しい大会となったのでした。

